

# ☆ Nochero ☆

13 de marzo, 2010



うた：峰 万里恵 ギター：三村 秀次郎 ギター：高場 将美

## I

### 1. イパカライの思い出 *Recuerdo de Ypacaraí*

作詞：スレーマ・デ・ミルキン Zulema de Mirkin 作曲：デメートリオ・オルティース Demetrio Ortiz

作曲者はパラグアイ人の歌手・朗読家でギタリスト、政治的理由で母国を離れ、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスで一生を終えました。この曲は、故郷のイパカライ湖のほりでの実体験をもとに作曲。パラグアイ住民のことばグワラニー語で歌詞をつけました。後年、アルゼンチンの女性詩人によるスペイン語歌詞で、広く知られるようになりました。

なお、イパカライは「ウパカライ」と表記した方が、グワラニー語の実際の発音に近いようです（日本語にはない音ですから、どう書いても正しくないのですが）。口を半開きに、軽く「イ」というときの形にして、舌先を緊張させ、のどで「ウッ」と響かせる感じです。

ある暖かい夜、わたしたちは知り合った、ウパカライの青い湖のほりです。あなたは悲しげに、道を歩みながら、うたっていた、グワラニー語で、古いメロディの数々を。そして、あなたの歌の魔力とともに、わたしの中にあなたへの愛が生まれていった。満月の美しい夜の中、あなたの白い両手から、わたしに伝わった熱と愛情。

どこにいる？ むすめよ。あなたの柔らかい歌声はわたしのところにとどかない。すべてがあなたを思い出させる、ウパカライの青い湖のほり。わたしの愛はあなたを待っている、むすめよ。

### 2. レハニーア（遠くにあるもの） *Lejanía*

作詞作曲：エルミーニオ・ヒメーネス Herminio Giménez

作者はパラグアイ音楽史上もっとも尊敬されている巨匠のひとりです。このような抒情的な歌曲——《グワラニア》と名づけられたスタイルです——や民衆的な舞曲から、映画音楽や交響曲まで作曲しました。子どものときの最初の楽器はブラスバンドのチューバでしたが、後にはバンドネオンの演奏で有名でした（オーケストラ指揮が本業？です）。1920年代からブラジル、アルゼンチンなどにパラグアイ音楽を知らせた先駆者です。自由を愛する理想主義者だったので、独裁政権時代のパラグアイには住めず、約40年間アルゼンチンに亡命していました（1991年、86才で没）。

この曲は1937年（32才）、10代のころの初恋の女性を想って、アルゼンチンで作詞作曲しました。ほどなくブラジルで、『わたしの初恋 *Meu primeiro amor*』というタイトルとポルトガル語歌詞で大ヒットしました。現在ブラジルでは、自国の音楽だと思こんでいる人のほうが多いくらいです。

遠い最初の愛、わたしの子どものころの初恋、なんとつかしいことだろう。遠い至上の愛、青い夢、おまえはどこにいる？

遠くなってしまった、あの数々の午後の思い出、愛情の午後。思い出たちは、わたしの記憶に寄り集まってくる、プカスー（野鳩の1種）の群れのように。

わたしの魂を焦がす思い出たち。きょうわたしの人生は悲しい。だからわたしは口ずさんでゆく、この悲しい歌を、純粋なグワラニーの歌を。

わたしの遠い愛、どこにいるのか？ わたしを見捨てたあの日から。あの人は決して知らないだろう、わたしがもの言わず耐えていることを、あの人去るとき残していった、この大きな空白を。

時は過ぎた、でもわたしは待ちながら生きている。その人が帰ってくる日を。そのとき、わたしの信じる心は美しい光になるだろう。その光が照らしてゆくだろう、この長い夜々を、みなしごのわたしの夜々を。

### 3. ククルククー・パローマ *Cu cu rru cu cú paloma*

作詞作曲：トマス・メンデス *Tomás Méndez*

メキシコのフォルクローレ、ウワパングのリズムによる曲です。作者の父親は鉱山労働者で、職業病の肺炎で早く亡くなりました。トマスは物心ついたころから、よその家に住み込みで家事の仕事をしました。かしこい子で、ことばの知識がとくに優秀でした。いつも口笛を吹いていたそうです。十代で失恋の曲をつくり、町の売春酒場でヒット(?)したとのこと。やがて首都に出て、音楽業界の片隅に入り込み、1950年代初めに作者としてRCAレコードに契約されました。

人は言う——彼は夜ごと夜ごと、ただ泣いていた。

眠らないで、ただ飲んでた。人は誓って言う——空にまで彼の泣き声が聞こえ、空も震えた。彼女ゆえにどんなにくるしんだことか！ 死ぬときも、彼女の名を呼びながら行った。

……町はずれの小さな一軒家に、朝早くから、鳩が1羽、うたいにやってくる。人は誓って言う——あの鳩は彼の魂、まだ彼女を待っているのだと、不幸をもたらす女が帰ってくるのを。

ククルククー……鳩よ、泣くな！ 石になんか、決して愛のことはわからない。

### 4. ラ・サンドウंगा *La zandunga*

オアハーカ州伝承曲 *Tradicional oaxaqueño*

タイトルは「素敵さ、魅力」といった意味ですが、ここでは女性の名前のようです。この曲は、1850年にメキシコ市の劇場で初演されたアンダルシア地方(スペイン)の民衆舞曲が元になっています。オアハーカ州の将軍がこれを大好きになって、故郷に持ち帰り、先住民のことばでも作詞したりして、広めたのだそうです。今日もオアハーカ州の「国歌」あつかいされている音楽です。

おとといの夜、あなたの家へ行った。3回も錠前を叩いた。あなたは恋愛には向いていませんね、眠りが深すぎる。アイ、サンドウंगा。どうぞお願い、サン

ドウंगा、裏切らないで、わたしの心のママ。

あなたの窓辺を通り過ぎたとき、あなたはわたしにレモンを投げた。レモンはわたしの顔に当たった。すっぱい汁は心臓に。

わたしはあなたが眠っている夢を見た。眠っているあなたは動かなかった。でも忘れてしまおうとしたときに、わたしの夢の中であなたは目を覚ました。忘れることができなくなった。

アイ、サンドウंगा。どうぞお願い、サンドウंगा、そんなに意地悪しないで、わたしの心のママ。

### 5. 朝のくちづけ *Amanecí en tus brazos*

作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス *José Alfredo Jiménez*

カンシオン・ランチェーラという、メキシコの地方色をもった、1930年代からはじまった歌謡ジャンルからお聴きください。この2曲の作者(自分でも歌った)は1950年代から、それまでのランチェーラにはなかった、より深い人間性をもった曲をたくさんつくってきました。メキシコらしいマチョ(男)的な心で、でも深い愛情にあふれて、独自の詩的な表現をもった曲ばかりです。

わたしはふたたび夜明けをむかえた、あなたの両腕のなかで。そして目を覚ました、喜びで泣きながら。わたしはあなたの両手で顔を隠した、あなたを愛しつづけるために、まだ……。

あなたはほとんど眠ったまま目を覚ました。そして、わたしにはわからない、なにかを言いたそうにした。でもわたしはキスであなたの口を黙らせた。そうしてたくさんの、たくさんの時間が過ぎた。

夜がやって来たとき、月が現れて、窓から入ってきた。なんと美しい！ 空の光があなたの顔を照らした。

わたしはふたたび、あなたの両腕のなかに入りこんだ。あなたは、わたしにはわからない何かを言いたそうにした。でもわたしはキスであなたの口を黙らせた。そうして、たくさんの、たくさんの時間が過ぎた。

### 6. わたしの不幸の夜 *La noche de mi mal*

「わたしは、あなたの名前をふたたび聞きたくない。あなたがどこへ行くのか知りたくもない」と、あの夜あなたは言った。あの、わたしの不幸の黒い夜。

もしわたしが「行かないで」と言っていたら、どんな悲しい運命が、わたしを待っていたろう。もしわたしが「わたしを置いていかないで」と言ったら、わたし自身の心が笑い出しただろう。

だから、あなたの目に映るわたしは、あんなに落ち着いていた。わたしは冷静に歩いていった、青よりも青い空の下を。

その後はこの通り。わたしは、できるところまでがまんした。そして最後には、海のように泣いた、あなたに見られないところで。

## 1. ため息の橋 *El Puente de los Suspiros*

作詞作曲：チャブーカ・グランダ *Chabuca Granda*

19世紀末～20世紀はじめに、ペルーの首都リマのアフリカの血が濃い貧しい地区の街角で、ヨーロッパのワルツを、ギターで自由に即興演奏しているうちに、独自のリズム感覚を持った、自由な新しいスタイルが生まれました。1920年代には、新しい和音が自由に付けられ、歌詞も語り物の要素が加わって、本格的な歌曲ジャンルとなりました。リマのワルツは、たとえばブエノスアイレスのタンゴのように、その街の民衆の代名詞になっています。この曲の作者は、混血の民衆文化から学んで、ワルツに新しい高い境地をもたらした女性です。

かわいい橋、葉の茂みのあいだに、追憶たちのあいだに、隠れている。

かわいい橋、とある谷間の傷口の上に伸びている。おまえの材木たちは、思いの芽を出す。心は、おまえ

の手すりにしっかりとつかまる。

わたしの橋は、午後はいつもわたしを待っている詩人。そして橋はため息をつき、わたしはため息をつく。彼はわたしを迎え、わたしは彼を置いて去る。ひとりきりで、彼の傷——彼の谷間——の上に。

そして古い伝説はものがたっていく、愛する男の不当なへだたりのことを。フィクスの木たちに打ちひしがれた彼の勇気。その木の根は埋められている、彼の愛した女性の中に。

かわいい橋、眠りこんでいる。そして谷間のせせらぎのあいだで、思い出たちと抱き合っている、崖たちと、石段たちと。

「ため息の橋」 おまえに守っていてほしい、おまえの心あたたまる沈黙の中に、わたしの、ひめごとを。

## 2. インディア *India*

作詞：マヌエル・オルティース・グレーロ *Manuel Ortiz Guerrero*

作曲：ホセ・アスンシオン・フローレス *José Asunción Flores*

作曲者は、パラグアイのもっとも有名な音楽家でしょう。この曲のような、グワラニーの民族感情に根ざした歌曲に《グワラニア》というジャンル名を創案した人です。ブエノスアイレスで大きな活動をして、世界にパラグアイ音楽を伝えたオーケストラ指揮者です。

作詞者は、この曲にうたわれるグワイラ地方のウヴトゥルスー（山脈地帯）出身で、情熱のロマン派詩人。36才の若さで、亡命先のブエノスアイレスで亡くなりました。

インディア、女神と牝豹の美しい混合。グワイラに住む、はだかの乙女。野育ちの物語り歌が、彼女

の腰の曲線をかたちづくった、青いパラナー河の、とある曲がり角を模して。

彼女の部族の花、山に住むグアヤク族。愛の野育ちのイヴ、グワラニーのエデンの園の。

彼女のこめかみに勇み立つのは、羽毛となった彼女の誇り。彼女のことは、野生のエイルスー（ミツバチの1種）の巣。虎と豹の牙の首飾りが、ウヴトゥルスー（山脈）のミューズを飾る宝石となる。

野生のおんな。森林が彼女の家庭。彼女もまた愛することを知っている、彼女もまた夢見ることを知っている。

## 3. アスンシオン *Asunción*

作者は、まずアルゼンチンのブエノスアイレスで、故郷パラグアイの音楽を広く伝えはじめた先駆者ミュージシャンたちのひとりです。この曲では、国の名前はスペイン語発音で「パラグアイ」、首都の名前はグワラニー語で「パラグアウー」（これが、アスンシオンの、先住民による名前）としています。

アスンシオン……おまえの思い出たちは、わたしにとって、なんとへだたってしまったことだろう。アスンシオン……おまえは甘い、遠くから、グワラニーのアルパのなかに。

つばめよ、長い道のりを、おまえといっしょに飛んで行こう。今、会いたい。遠くにいればいるほど、

作詞作曲：フェデリーコ・リエーラ *Federico Riera*

さらにおまえが恋しい……パラグアウー（アスンシオンのグワラニー名）。

野鳩よ、わたしの抒情の歌の悲しみに、子守歌をうたってくれおまえ。わたしの眠られぬ夜のことを話しておくれ、パラグアウーに知ってもらうために。

青春の霧の彼方に、失われる恋人のように、わたしの記憶のなかで溶けてゆく、おまえの女らしいシルエット。

おまえの植民地気分の姿の中の、古い中世風の中庭たち。いつもわたしはノスタルジーのなかに思い起こす、パラグアイの首府。

## 4. バーモノス（さあ行きましょう） *Vámonos*

作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス *José Alfredo Jiménez*

作者については前にご紹介しました。元来は、男性用の歌詞だったのですが、ここでは女性用の増補改訂版、女性歌手アマーリア・メンドーサの使った歌詞です。

わたしたちは平等ではないと、ひとびとは言う。あなたの人生とわたしの人生は、道に迷ってしまうだろうと。あなたはならず者で、わたしはまともな人間だと。ふたつのちがった人格は愛し合うことはできないと。

でももうわたしはあなたを愛した。そしてあなたを忘れない。そしてあなたの両腕の中で死ぬことがわたしの夢。わたしには社会階級なんてことはわからない。ただ知っているのは、あなたがわたしを愛しているということ、あなたをわたしが愛しているように。

わたしたちが平等でなくても、わたしたちはどうでもいい！ わたしたちの愛の物語は、つづかなければ

いけない。そしてだれかがわたしに言ったように、人生はととても短い。今度は、いつまでも、あなたゆえにわたしはやって来た。

でも知っていてほしい、わたしはあなたに義務づけはしない。もしあなたがわたしといっしょに来るのなら、それは愛のゆえ。そう、あなたの力のすべてをもって、あなたの人生でわたしがそうであるもの。人にわかるように——あなたをわたしが愛しているようにあなたがわたしを愛していることが。

さあ行こう、だれもわたしたちを裁かないところ、だれもわたしたちに悪いことをしていると云わないところへ。

さあ行こう、この世間を離れて、裁判所もなければ法律もなにもないところ、わたしたちの愛だけがあるところへ。

## 5. ラ・ジョローナ（泣き女） *La Llorona*

オアハーカ州伝承曲 *Folklore oaxaqueño*

この曲は、先にご紹介した「サンドウंगा」というジャンル(?)のなかの1曲なのだと云われます。

みんながわたしを、黒い男と呼ぶ、ジョローナ。黒いけれど愛情深い男。ぼくは緑のチレ(とうがらし)のよう、辛いけれど味があるよ。

ああ、あわれなわたし、空の青色をまとったジョローナよ、たとえ命を落としても、わたしはあなたを愛することをやめない。

あなたが教会から出てくるのを、ジョローナ、わたしは通りすがりに目にした。美しいウィピール(先住民のブラウス)をまとった姿に、わたしはあ

なたを処女マリア様だと思ってしまった。

ああ、あわれなわたし、ゆりの野のジョローナよ、恋のことを知らないものは、命を捧げる殉教のこともわからない。わたしが愛しているのに、ジョローナ、あなたはもっと愛することを求める。もうあなたに命をあげてしまったのに、これ以上、何がほしいのか？

ああ、あわれなわたし、ジョローナよ、わたしを川のほとりへ連れて行っておくれ。わたしをあなたのショールで包んでおくれ、わたしは寒さで死にそうだから。

## 6. ラ・テキーラ（テキーラおんな） *La Tequilera*

作詞作曲：アルフレード・ドルサーイ *Alfredo D'Orsay*

女性ランチェーラ歌手のスタイルの元祖(男性にも大きな影響を与えました)、ルーチャ・レージェスのいちばん有名なレパートリーのひとつです。1930年前後のヒット。

テキーラに酔っばらなくても、わたしはいつもわたしの魂を連れている。魂が、この冷酷なメランコリー病から治るかどうかわかるために。

アイ！ その愛ゆえに！ さて、どうにもなりはしない。だって運命がわたしにそれをくれたのだ、いつでも苦しむようにと。

善きメキシコ女として、わたしは澄ました顔で、痛

みに耐えよう。どうなろうと結局は明日には、わたしにはテキーラが1口あるだろう。

アイ！ その愛ゆえに！ さて、どうにもなりはしない。だって、彼がわたしを裏切っていたとしても、わたしには彼を憎むことができない。

わたしはテキーラ女と呼ばれる、まるでクリスチャン・ネームのように。なぜならわたしは洗礼を受けたのだ、テキーラ1口で。

アイ！ もうわたしは治ってしまった。だって、ここで何を待っているの？ 人の言うには、酔ったことで——他人が言ってることだけ——わたしはすべてを失ったんだそうだ。

## 1. 腕を出して、こっちに来て *Dá-me o braço, anda daí*

作詞：ジョアオン・リニャールシュ・バルボーズ João Linhares Barbosa

作曲：ジョゼ・ブランク José Blanc

ポルトガルの首都リスボンの民衆文化の代名詞である歌曲ジャンル《ファド》をおとどけします。最高の民衆詩人といわれたファド作詞家による歌詞を、ポルトガル・ギター奏者がつくったメロディに乗せたものです。

わたしに腕をちょうだい、そこから出ていらっしやい。わたしはあなたに寄りかかってうたいたい。月光が落ちてくるのを感じながら、夜が終わるまで寄りかかってうたいたい。

この真っ赤なバラが、わたしを、おいしそうに見せるでしょう？わたしたちは、浮かれて遊ぶ人生の3人——あなたと、わたしと、このバラと。

わたしは並んで通って行ってやる、それが楽しみ、あの女に並んでやる。ファドを歌わないあの女、あなたがわたしを裏切った、そのときのあの女。

それからみんなで郊外へ遊びに行く。わたしはこの浮かれ遊ぶ人生が大好き。夜更けに、扉のそばであなたにキスする。そして扉を閉めて、あなたを愛す。

## 2. 割れた鏡 *Espelho quebrado*

作詞：ダヴィッド・モウラオン＝フェレイラ David Mourão-Ferreira

作曲：アライン・オウルマン Alain Oulman

作詞者はポルトガル現代文学の代表のひとりで、詩人で小説家でした。あの『黒い舟（暗いはしけ）』の歌詞もこの人が書きました。作曲者は、リスボン生まれのフランス人で、新しいファドを、女性歌手アマーリア・ロドリーゲスさんのために創造した人です。

風は、その鞭で湖の鏡を割る。わたしのなかで受けた傷は、もっと激しかった。なぜなら風は通り過ぎてゆくとき、あなたの名前をささやいていったから。それをささやいたあとで、わたしを置いていったから。あまり速く通り過ぎたので、わたしの悩みを破壊す

ることもできなかった。その悩みの中では、わたしはこんなにしっかり、変わらずにいる。でも風の通過は、ガラスの面にして刻んでいった、湖に、わたしの奴隷女のイメージを。

おお、あなたのないわたしの両目の、クリスタルの液体よ。むなしく嵐にわたしは頼んだ、わたしを喪に服させる鏡が壊れるようにと。わたしの顔が、涙のない乾いたものになるようにと。

……アイ、あなたのないわたしの両目……あなたのない……わたしのなかでは、もっと激しかった、風が。

## 3. ケ・セラ・デ・テイ（あなたはどうなっているのだろう？）

### *Qué será de ti*

作詞：マリーア・テレサ・マルケス María Teresa Marquez

作曲：デメトリオ・オルティース Demetrio Ortiz

作曲者は『イパカライの思い出』の人ですね、作詞者は女性歌手で、ブエノスアイレス生まれですが、パラグアイの血をひいていると思われます。

あなたは、どうなっているのだろう？ あなたの心の夢が、ついに枯れてしまったとき。そしてあなたが感じたとき——もう、人生が過ぎてゆきながら、あなたに苦悩を残していったことを。それは、理解することの苦悩——わたしたちに愛が与えてくれる、あの信じる心なしには、なにもあり得ないと。

あなたにわたしのことを話すだろう、わたしたちが歩き回ってきた、すべての道たちが。そこでわたした

ちが生きてきた時間をあなたに思い出させながら…

そしてあなたは、わたしの愛にノスタルジーを感じるだろう。あり得なかった愛が、帰ってくることを願いながら。

あなたは、どうなっているのだろう？ あなたがひとりになったとき、そしてわたしのあこがれていたもののすべてを思い出したとき。

わたしの忠実な愛が、あなたといっしょにいるだろう。そしてあなたのにがさを消すだろう。なぜなら、わたしの祝福の許しのなかに、あなたは平和を見つめるだろうから。

## 4. 黄金の小舟 *La barca de oro*

メキシコ、19世紀古謡 採譜編曲：アブーンディオ・マルティーネス *Abundio Martínez*

アブーンディオ・マルティーネスは、メキシコ先住民オトミー人で（父は大工で町のプラスバンド指揮者）、ピアノ、ヴァイオリン、フルート、ギター等ほとんどの楽器を弾けました。首都メキシコ市で、ワルツの作曲や、プラスバンドの指揮・演奏をしていました。1914年に39歳で、極貧のうちに結核で亡くなっています。

もうわたしは港へ行く。そこには「黄金の小舟」がいる、わたしを連れて行くはず。

もうわたしは行く。わたしは、ただお別れを言いに来た。さようなら、おんなよ。さようなら、永遠にさようなら。

もうふたたび わたしの目はあなたを見ないだろう。そしてあなたの耳も、わたしの歌声を聴かないだろう。わたしは、わたしの涙で海原の量（かさ）を増やそう。さようなら、おんなよ。さようなら、永遠にさようなら。

## 5. 想いのとどく日 *El día que me quieras*

作詞：アルフレード・レペーラ *Alfredo Le Pera* 作曲：カルロス・ガルデル *Carlos Gardel*

作曲者はアルゼンチン・タンゴの歌いかたを発明した偉大な歌手で、これは同名の主演映画のための曲です。リズムは、とくにタンゴではありません。作詞者は脚本家です。

わたしの夢をやさしく撫でるあなたのためいき。あなたの軽い笑い声は、歌のように、わたしの傷をいやしてくれる。そして、すべては忘れられる。

あなたがわたしを愛する日、華やかなバラたちは、いちばん素適な色の晴れ着で飾る。風に向かって鐘たちが、あなたがもうわたしのものだと言え、あなた

の愛のことを語り合う。

あなたがわたしを愛する日、この世には調和が満ち朝の光は澄みきって、泉は楽しみに湧き出し、水晶の歌をうたう。そよ風はメロディのさざめきを運んでくる。歌い手の小鳥の声はさらに甘くなり、人生に花が咲き、痛みは存在しなくなる。

あなたがわたしを愛する夜、空の青い深みから、嫉妬ぶかい星たちが、通り過ぎるわたしたちを見ているだろう。そして神秘の光線が、あなたの髪にやどる。まるで、なんでも見たがるホタル——その光は見とどける、あなたが、わたしのなぐさめだと。

ごいっしょに時間をすごしていただきありがとうございました。  
今後ともよろしく願いいたします。

選曲・構成：峰 万里恵 / プログラム作成：高場 将美

4月2日(金) 19:00(開場18時30分)

アルゼンチンから……タンゴ

……そして女性につくったうたの数々

峰 万里恵(うた) 高場 将美(ギター、MC)

**N.N. Estudio Ebisu**

渋谷区恵比寿 1-21-6 N. N. ビル1F

チャージ1800円(ワンドリンク付き)

\*アルゼンチンのタンゴ、そして女性につくった曲にスポットを当てるプログラムです。1920~30年代のタンゴのディーヴァたち——アダ・ファルコーン、アスセーナ・マイサーニ、メルセデーヌ・シモーネ——が、自分のためにつくった歌など、すてきな曲の数々をお楽しみください。

くわしくは峰 万里恵ホームページ [mariemine.web.fc2.com/](http://mariemine.web.fc2.com/)

➡ ご予約は、峰 万里恵まで—— tel: 03-3479-2420 fax: 03-3235-0470  
E-mail: [marie-mine@hotmail.co.jp](mailto:marie-mine@hotmail.co.jp)